2026 年度

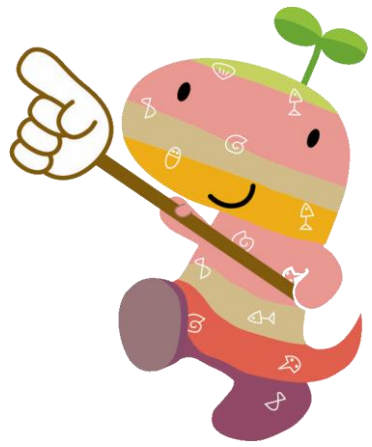
学びの地図

～　学習シラバス　～

シラバスとは？

〇教科、学年ごとの１年間の授業計画や
　成績評価方法をまとめたものです。
〇各教科の単元ごとの「身につけたい力」
　を示しています。

〇学習のポイントを参考にして、日々の授
　業･学習に積極的に取り組みましょう。



丹波市立山南中学校

教科	国語	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

⑴　社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
⑵　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
⑶　言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	**１、言葉を楽しむ。** 【読むことA】・風の五線譜　・朗読の世界 ・詩の心――発見の喜び ・詩の創作 【言語B】・文法とは　・言葉の単位 ・活字と書き文字・画数・筆順 **２、思いを捉える** 【読むことA】・私たちの未来 【話すこと】・インタビュー・話の聞き方、質問の仕方 【言語B】・接続する語句　指示する語句 **３、分かりやすく伝える** 【読むことA】・オオカミを見る目・「食文化」のレポート 【言語B】・音読み　訓読み	・効果的な表現に注意して内容を解釈し、読み方を工夫して音読する。 ・読み取ったことをもとに、言葉と自分自身との関りなどについて自分の考えを持つ。 ・表現の工夫に注意しながら情景や心情を想像し、俳句を読み味わう。俳句の鑑賞文をまとめる。 ・俳句を作って互いに読み合い、作品の良さを評価する。 ・間違えやすい敬語と、正しい敬語の使い方について理解し、敬語を適切に使う。 ・間違えやすい言葉について理解し、漢字を文や文章の中で使う。 ・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係、場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を読み味わう。 ・話の内容や表現の仕方を評価しながら聞き、自分の考えを広げる。 ・送り仮名の付け方について理解し、漢字を文や文章の中で使う。 ・単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解を深め、文法の復習をする。 ・論の進め方や説明の仕方について考える。人間と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。 ・伝える目的や内容に適した文章の種類を選択し、構成や表現を工夫して書く。 ・読み方の難しい言葉について理解し、漢字を文章や文の中で使う。
２学期	**４、展開を捉える** 【読むことA】・さんちき 【書くこと】・根拠を明確にして書こう 【話すこと】・中心を明確にして話そう 【言語B】・方言と共通語　・文の成分　連文節 **５、考えをまとめる伝統文化に親しむ** 【読むことA】・私のタンポポ研究 【言語B】・語の意味と文脈・多義語 ・漢字の部首 **６、作品を読み解く** ・【古文】移り行く浦島太郎の物語　・伊曽保物語 ・竹取物語　・矛盾　・月夜の浜辺 【言語B】・名詞	・文章に表れている考えを捉え、吟味する。自分の考えを持ち、議論の仕方を踏まえて話し合う。 ・批評の対象について、観察分析したりして、対比と象徴を理解する。 ・和語・漢語・外来語の違いについて理解し、使い分ける。 ・他教科で学ぶ漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。 ・連語や慣用句について理解し、話や文章のなかで使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章を批判的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考える。 ・広告を観察・分析して批評文を書く。 ・言葉の変化について理解する。 ・読書を通して自分の生き方や社会との関り方を考え、自分の将来について考えを持つ。 ・形や音の似た、紛らわしい漢字について理解し、漢字を文や文章のなかで使う。 ・和歌が詠まれた背景や作者の心情、表現技法に着目する。また和歌の世界を想像しながら音読する。 ・当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ。構成や表現の特徴とその効果について考える。 ・長く親しまれている古典を読んで、人間社会について考えを深めたりする。 ・詩の表現の特徴をとらえ、リズムを感じながら朗読する。 ・四字熟語について理解し、文や文章の中で使う。
３学期	**７、表現を考える** 【読むことA】・ニュースの見方を考えよう 【話すこと】・「似ている言葉」スピーチ 【言語B】・他教科で学ぶ漢字 **８、視点を変える** 【読むことA】・少年の日の思い出 ・視点を変えて心情を書こう 【言語B】・日常生活から生まれる随筆・単語の分類 ・漢字の成り立ち・わたしの中にも	・情報やメディアの意義について考える。 ・多様な考えを想定し、伝えたい内容について検討する。進行の仕方を工夫して合意を形成する。 ・中学生活を振り返ったり、将来を展望したりして、自分の思いを手紙にまとめる。 ・効果的な表現に注意して詩を読む。詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。 ・文学作品を読み、人間や社会について考える。 ・勉強してきたことを復習し、文章の中での文法について学ぶ。 ・他教科で学ぶ漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。 ・登場人物の思いを考えて作品を読み味わう。社会の中で生きる人間について、自分の意見を持つ。 ・自分の考えを明確にし、相手や目的に応じて話の内容や展開を考えてスピーチする。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	言葉の特徴や使い方について理解し、言語活動を通して正しく用いることができる。	論理的に考える力や想像する力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識して、思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
評価の方法	定期テスト　小テスト　スピーチ プリントの提出	定期テスト　レポートの作成　スピーチ グループワークでの話し合い	授業中の様子　グループワークなどの取り組み 振り返りシート

〔学習のポイント〕

○言葉の力を鍛えよう
　授業で習った言葉はどんどん日常生活で使って自分のものにしていきましょう。語彙を増やすために、新聞記事を読むことや、読書にも取り組みましょう。
○想像し、思考し、伝えあう力を伸ばそう
　自分の意見をたくさん書きましょう。自分の意見を書いたり伝えたり人の意見を広げたりする力が、これから社会に出る皆さんに求められます。
○継続してコツコツと取り組もう
　単元別漢字や「スイッチ」など、家でできる予習・復習はたくさんあります。自分が理解できていない箇所を確認し、自分にあった対策を取りましょう。

教科	国語	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

⑴　社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
⑵　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
⑶　言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	**１．言葉を感じる**	
	・未来へ	・詩に描かれていることを解釈し、読み方を工夫して音読する。
	・あの夕暮れへ帰る	・読み取ったことを踏まえ、自分の知識や体験も交えて考えを広げる。
	・短歌を楽しむ	・短歌に詠まれた情景や心情を想像し、短歌を読み味わう。表現の工夫に着目する。
	・短歌の創作	・自然や体験を題材に、表現を練り上げて短歌を作る。
	・話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。
	４．思いを深める	
	・字のない葉書	・登場人物の言葉や行動の意味を考えて、作品を読み味わう。作品から自分の考えを深める。
	・依頼状とお礼状	・登場人物の言葉や行動の意味を考えて、作品を読み味わう。作品から自分の考えを深める。
	２．作品を読み解く	
	・足跡	・全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える。
	・意見と根拠の聞き方	・相手の考えとその根拠に注意して話を聞き、自分の考えと比べる。
	・敬語	・敬語の働きや使い方について理解し、話や文章の中で使う。
	３．伝え方を工夫する	
	・ネコだって推理できる	・文章と図表を結び付け、その関係を踏まえて内容を考える。
	・鰹節ー世界に誇る伝統食ー	・身近な地域の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを絞り込む。
	・「地域の魅力」の紹介文	・読書の意義を知り、おすすめの本の魅力を紹介し合う。
	・用言の活用	・単語の活用について理解する。
	・漢字の意味	・漢字の意味を理解して、漢字を文や文章の中で使う。
2学期	**５．説得力を高める**	
	・黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会	・文章を読み比べて、論の進め方について考える。自分の知識や体験と結び付けて考えを深める。
	・意見と根拠の吟味	・文章の構成を工夫し、分かりやすくて説得力のある意見文を書く。
	・「地図」の意見文	・聞き手に納得してもらうために、説得力のある話の構成を考える。
	・助詞	・助詞の働きについて理解する。
	・同訓異字	・同訓異字について理解し、話や文章の中で適切に使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	・落葉松	・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
	６．伝統文化を味わう	
	・枕草子／徒然草	・筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。表現を工夫して随筆を書く。
	・平家物語	・表現の特徴に注意して朗読し、古典の正解に親しむ。武士の価値観や生き方について考える。
	・漢詩	・表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。表現の効果について考える。
	・助動詞	・読み手を意識して、的確な表現になるように文章を推敲する。
	・他教科で学ぶ漢字	・助動詞の働きについて理解する。 ・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
	８．描写を味わう	
	・走れメロス	・人物像を捉え、人物の言動について考えながら、作品を読み深める。
	・人物を描写しよう	・人物像が伝わるように、人物の言葉や行動・態度などを描き出す。
	・リンクマップによる話し合い	・読書の意義を知り、目的に応じて情報を集め、レポートにまとめる。
	・類義語・対義語	・類義語と対義語について理解する。
3学期	**７．効果的に表現する**	
	・「正しい」言葉は信じられるか	・文章を読んで、事実の述べ方が読み手に与える印象の違いについて考える。
	・私が一番きれいだったとき	・お互いの立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を出す。
	・坊っちゃん	・人物や情景をいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。
	・同音異義語	・人物の心情に注意して、詩に込められた思いを考える。 ・文学作品を読み、登場人物の行動や人柄、考えについて考えを深める。 ・同音異義語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	言葉の特徴や使い方について理解し、言語活動を通して正しく用いることができる。	論理的に考える力や想像する力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識して、思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
評価の方法	定期テスト　小テスト　スピーチ プリントの提出	定期テスト　レポートの作成　スピーチ グループでの話し合い	授業中の様子　ペア、グループワークの様子 プレゼンテーション、発表内容

〔学習のポイント〕

〇言葉の力を鍛えよう
　授業で習った言葉はどんどん日常生活で使って自分のものにしていきましょう。語彙を増やすために新聞記事を読むことや、読書にもどんどん取り組みましょう。
〇想像し、思考し、伝えあう力を伸ばそう
　自分の意見をたくさん書きましょう。自分の意見を書いたり伝えたり人の意見を広げたりする力が、これから社会に出るみなさんに求められるものです。
〇継続してコツコツ取り組もう
　毎日漢字や自主ノートなど、家でできる予習・復習はたくさんあります。自分が理解できていない箇所を確認し、自分に合った対策を取りましょう。

教科	国語	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

⑴　社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
⑵　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
⑶　言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	**１．言葉を磨く**	
	・生命は	・効果的な表現に注意して内容を解釈し、読み方を工夫して音読する。
	・世界への入り口	・読み取ったことをもとに、言葉と自分自身との関りなどについて自分の考えを持つ。
	・俳句の読み方味わい方	・表現の工夫に注意しながら情景や心情を想像し、俳句を読み味わう。俳句の鑑賞文をまとめる。
	・俳句を作って句会を開こう	・俳句を作って互いに読み合い、作品の良さを評価する。
	・間違えやすい敬語	・間違えやすい敬語と、正しい敬語の使い方について理解し、敬語を適切に使う。
	・間違えやすい言葉	・間違えやすい言葉について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
	２．作品を論じる	
	・形	・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係、場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を読み味わう。
	・提案や主張の聞き方	・話の内容や表現の仕方を評価しながら聞き、自分の考えを広げる。
	・送り仮名	・送り仮名の付け方について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
	・表現に生きる文法	・単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解を深め、文法の復習をする。
	３．効果的に伝える	
	・絶滅の意味	・論の進め方や説明の仕方について考える。人間と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。
	・「環境」の新聞　編集して伝えよう	・伝える目的や内容に適した文章の種類を選択し、構成や表現を工夫して書く。
	・読み方の難しい漢字	・読み方の難しい言葉について理解し、漢字を文章や文の中で使う。
	・連語・慣用句	・連語や慣用句について理解し、話や文章のなかで使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
２学期	**４．表現を評価する**	
	・百科事典少女	・文章に表れている考えを捉え、吟味する。自分の考えを持ち、議論の仕方を踏まえて話し合う。
	・対比と象徴	・批評の対象について、観察分析したりして、対比と象徴を理解する。
	・和語・漢語・外来語	・和語・漢語・外来語の違いについて理解し、使い分ける。
	・他教科で学ぶ漢字（１）	・他教科で学ぶ漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
	５．多面的に検討する	
	・受け取る「利他」	・文章を批判的に読み、文章に表れているものの見方や考え方について考える。
	・「広告」の批評文	・広告を観察・分析して批評文を書く。
	・言葉の移り変わり	・言葉の変化について理解する。
	・初恋	・詩の表現の特徴をとらえ、リズムを感じながら朗読する。
	６．伝統文化を受け継ぐ	
	・万葉・古今・新古今	・和歌が詠まれた背景や作者の心情、表現技法に着目する。また和歌の世界を想像しながら音読する。
	・おくのほそ道	・当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ。構成や表現の特徴とその効果について考える。
	・論語	・長く親しまれている古典を読んで、人間社会について考えを深めたりする。
	・他教科で学ぶ漢字（２）	・他教科で学ぶ漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
	・何のために働くのか	・読書を通して自分の生き方や社会との関り方を考え、自分の将来について考えを持つ。
	・紛らわしい漢字	・形や音の似た、紛らわしい漢字について理解し、漢字を文や文章のなかで使う。
	７．主題を考える	
	・故郷	・登場人物の思いを考えて作品を読み味わう。社会の中で生きる人間について、自分の意見を持つ。
	・条件スピーチ	・自分の考えを明確にし、相手や目的に応じて話の内容や展開を考えてスピーチする。
	・四字熟語	・四字熟語について理解し、文や文章の中で使う。
３学期	**８．思いを馳せる**	
	・いつものように新聞が届いた	・情報やメディアの意義について考える。
	・話し合いで意見をまとめよう	・多様な考えを想定し、伝えたい内容について検討する。進行の仕方を工夫して合意を形成する。
	・今の思いをまとめよう	・中学生活を振り返ったり、将来を展望したりして、自分の思いを手紙にまとめる。
	・レモン哀歌／生ましめんかな	・効果的な表現に注意して詩を読む。詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。
	・国際社会と私たち	・文学作品を読み、人間や社会について考える。
	・文法のまとめ	・勉強してきたことを復習し、文章の中での文法について学ぶ。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	言葉の特徴や使い方について理解し、言語活動を通して正しく用いることができる。	論理的に考える力や想像する力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識して、思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
評価の方法	定期テスト　小テスト　スピーチ プリントの提出	定期テスト　作文　プレゼンテーション グループワークでの話し合い　スピーチ	授業中の様子　グループワークなどの取り組み 振り返りシート　提出物（プリント、課題等）

〔学習のポイント〕

○言葉の力を鍛えよう
　授業で習った言葉はどんどん日常生活で使って自分のものにしていきましょう。語彙を増やすために、新聞記事を読むことや、読書にも取り組みましょう。
○想像し、思考し、伝えあう力を伸ばそう
　自分の意見や考えをどんどん表現しましょう。自分の意見を書いたり話したりして伝えあう力や、意見の交流から考えを広げたり深めたりする力、筋道立てて課題を解決していく力が、これから社会に出る皆さんに求められます。
○継続してコツコツと取り組もう
　単元別漢字や「これで！完ぺき国語」など、家でできる予習・復習はたくさんあります。自分が理解できていない箇所を確認し、自分にあった対策を取りましょう。

教科	数学	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
（2）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
（3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	１章　正の数・負の数 １節　正の数・負の数 ２節　正の数・負の数の計算 ３節　正の数・負の数の利用 ２章　文字の式 １節　文字を使った式 ２節　文字式の計算 ３節　文字式の利用	・正の数と負の数の必要性と意味を理解する。 ・正の数と負の数の四則計算ができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 ・数の集合と四則計算の可能性を理解する。 ・自然数を素数の積として表すことができる。 ・算数で学習した四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し、表現することができる。 ・正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。 ・文字を用いることの必要性と意味を理解する。 ・文字を用いた式における積と商の表し方を理解する。 ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを文字を用いた等式や不等式に表すことができることを理解し、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。 ・具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。
２学期	３章　方程式 １節　方程式 ２節　方程式の利用 ４章　変化と対応 １節　関数 ２節　比例 ３節　反比例 ４節　比例・反比例の利用 ５章　平面図形 １節　直線と図形 ２節　移動と作図 ３節　移動と作図の利用 ４節　円とおうぎ形	・方程式の必要性と意味および方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ・簡単な方程式、比例式を解くことができる。 ・等式の性質をもとにして、方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。 ・関数関係の意味、比例と反比例の意味、座標の意味を理解する。 ・比例、反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。 ・比例、反比例として捉えられる２つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 ・平行移動、回転移動および対称移動について理解する。 ・線分の垂直二等分線、角の二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解する。 ・おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる。 ・図形の性質に着目し、２つの図形の関係について考察し表現することができる。 ・図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。
３学期	６章　空間図形 １節　立体と空間図形 ２節　立体の体積と表面積 ３節　空間図形の利用 ７章　データの活用 １節　ヒストグラムと相対度数 ２節　データにもとづく確率	・空間における直線や平面の位置関係を理解する。 ・基本的な柱体や錐体、球の体積と表面積を求めることができる。 ・立体を線分や平面図形の運動によって構成させるものと捉えたり、立体を平面上に表現して平面上の表現から立体の性質を見いだしたりすることができる。 ・立体の体積や表面積の求め方を考察し表現することができる。 ・ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解する。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータや表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解する。 ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現することができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度が見受けられる。
評価の方法	定期テスト、単元テスト、小テスト等	定期テスト、単元テスト、レポート課題 授業中の学び合い活動等	レポート課題、自主ノートの取組 授業中のようす、振り返りシート等

〔学習のポイント〕

○復習をしっかりとしよう
数学は、内容が積み重なっていく学問です。１つ前の単元が理解できていないと次の単元を理解することが難しくなります。学習した内容をしっかりと復習し、１つ１つの理解を深めて、次の学習へ進みましょう。また、小学校の知識も必要となるので、わからなくなったら学年を戻って復習しましょう。

○まずは自分で考えよう
数学を学習すると色々な角度から物事を考えることができるようになります。しかし、そのカを身につけるためには自分の頭を使って考えなければいけません。難しい問題だからといってすぐにあきらめるのではなく、根気よく取り組みましょう。

○友だちの考え方を聞こう
自分のカだけでは解くことができない問題もたくさんあります。根気よく取り組んでもわからない場合は、解けている友だちの考え方を聞いて、新しい考え方を増やしましょう。友だちと一緒に色々と考えてみることも大切です。

○わかりやすく説明したり，教えたりできるようになろう
自分の練習問題を解き終えたら，他の人に説明してみましょう。また，助けを求めている人の質問に答えましょう。教えることで自分の理解がいっそう深まります。

教科	数学	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
（２）数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
（３）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	１章　式の計算 １節　式の計算 ２節　文字式の利用	・簡単な整式の加法と減法および単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係を、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ・文字を用いた式で数量および数量の関係を捉え、説明できることを理解する。 ・目的に応じて簡単な式を変形することができる。 ・具体的な数の計算や既に学習した計算の方法を関連付けて、整式の加法と減法および単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し、表現することができる。 ・文字を用いた式を具体的な場面で活用することができる。
	２章　連立方程式 １節　連立方程式 ２節　連立方程式の利用	・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立方程式の必要性と意味およびその解の意味を理解する。 ・簡単な連立方程式を解くことができる。 ・一元一次方程式と関連付けて、連立方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。
２学期	３章　一次関数 １節　一次関数とグラフ ２節　一次関数と方程式 ３節　一次関数の利用	・一次関数について理解する。 ・事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解する。 ・二元一次方程式を、関数を表す式とみることができる。 ・一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
	４章　図形の調べ方 １節　平行と合同 ２節　図形の性質の利用 ３節　証明	・平行線や角の性質を理解する。 ・多角形の角についての性質を見出すことができる。 ・平面図形の合同の意味および三角形の合同条件について理解する。 ・証明の必要性と意味およびその方法について理解する。 ・基本的な平面図形の性質を見出し、平行線や角の性質を基にして、それらを確かめ説明することができる。
	５章　図形の性質と証明 １節　三角形 ２節　四角形 ３節　図形の性質と証明の利用	・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見出したりすることができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。 ・直角三角形の合同条件について理解する。
３学期	６章　場合の数と確率 １節　場合の数と確率 ２節　確率の利用	・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率必要性と意味を理解する。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。 ・同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。
	７章　箱ひげ図とデータの活用 １節　箱ひげ図	・確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解する。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すことができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し表現することができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をつけている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度が見受けられる。
評価の方法	定期テスト、単元テスト、実力テスト 小テスト等	定期テスト、単元テスト、実力テスト レポート課題、授業中の学び合い活動等	レポート課題、授業への取組、 提出物への取組、振り返りシート等

〔学習のポイント〕

○復習をしっかりとしよう
　数学は、積み重ねの学問です。授業で学習した内容をしっかりと復習して、その１つ１つを理解し、学習を進めていきましょう。配布している問題集や自主ノートを利用して、わからない問題を中心に復習しましょう。日頃からコツコツと学習に取り組むことが大切です。
○まずは自分で考えよう
　数学を学習すると色々な角度から物事を考えることができるようになります。しかし、そのカをつけるためには自分の頭を使って考えなければいけません。難しい問題だからといってすぐにあきらめるのではなく、根気よく取り組みましょう。３年生では高校入試があるので、２年生のうちから応用問題にも積極的に取り組みましょう。
○友だちの考え方を聞こう
　自分のカだけでは解くことができない問題に出会うことになります。根気よく取り組んでもわからない場合は、解けている友だちの考え方を聞いたり、ヒントをもらったりして、新しい考え方を増やしていきましょう。友だちと一緒に色々と考えてみることはとても大切なことです。
○わかりやすく説明したり，教えたりできるようになろう
　自分の練習問題を解き終えたら，他の人に説明してみましょう。また，助けを求めている人の質問に答えましょう。教えることで自分の理解がいっそう深まります。

教科	数学	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
（2）数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・ 的確に表現する力を養う。
（3）数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	１章　式の展開と因数分解 １節　式の展開と因数分解 ２節　式の計算の利用	・単項式と多項式の乗法および多項式を単項式で割る除法の計算ができる。 ・簡単な一次式の乗法の計算および公式を用いる簡単な式の展開や因数分解ができる。 ・既に学習した計算の方法と関連付けて，式の展開や因数分解をする方法を考察し，表現することができる。 ・文字を用いた式で数量および数量の関係を捉えて説明することができる。
	２章　平方根 １節　平方根 ２節　根号をふくむ式の計算 ３節　平方根の利用	・数の平方根の必要性と意味を理解する。 ・数の平方根をふくむ簡単な式の計算をすることができる。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表して処理し，活用することができる。 ・既に学習した計算の方法と関連付けて，数の平方根をふくむ計算の方法を考察し，表現することができる。
	３章　二次方程式 １節　二次方程式 ２節　二次方程式の利用	・二次方程式の必要性と意味およびその解の意味を理解する。 ・因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くことができる。 ・解の公式を用いて，二次方程式を解くことができる。 ・因数分解や平方根の考えを基にして，二次方程式を解く方法を考察し，表現することができる。 ・二次方程式を具体的な場面で活用することができる。
2学期	４章　関数 $y=ax^2$ １節　関数 $y=ax^2$とグラフ ２節　関数 $y=ax^2$ の値の変化 ３節　いろいろな事象と関数の利用	・関数 $y=ax^2$ について理解する。 ・事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知る。 ・色々な事象の中に，関数関係があることを理解する。 ・関数 $y=ax^2$ として捉えられるもの二つの数量について，変化や対応の特徴を見出し，表，式，グラフを相互に関連付けて考察し，表現することができる。 ・関数 $y=ax^2$ を用いた具体的な事象を捉え考察し，表現することができる。
	５章　図形と相似 １節　図形と相似 ２節　平行線と線分の比 ３節　相似な図形の計量 ４節　相似の利用	・平面図形の相似の意味および三角形の相似条件について理解する。 ・基本的な立体の相似の意味および相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解する。 ・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめる。 ・平行線と線分の比についての性質を見出し，それらについて確かめる。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。
	６章　円の性質 １節　円周角と中心角 ２節　円の性質の利用	・円周角と中心角の関係の意味を理解する。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。
3学期	７章　三平方の定理 １節　直角三角形の３辺の関係 ２節　三平方の定理の利用	・三平方の定理の意味を理解する。 ・具体的な場面で，三平方の定理を見出し，活用することができる。
	８章　標本調査とデータの活用 １節　標本調査	・標本調査の必要性と意味を理解する。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し，整理することができる。 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し，表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い，母集団の傾向を推定し判断することができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をつけている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度が見受けられる。
評価の方法	定期テスト，単元テスト，小テスト　等	定期テスト，単元テスト，レポート課題 授業中の学び合い活動　等	授業への取組，提出物への取組 レポート課題，振り返りシート　等

〔学習のポイント〕

○復習をしっかりとしよう
　数学は，内容が積み重なっていく学問です。１つ前の学年や単元の内容が理解できていないと，内容を理解することが難しくなります。毎回の授業の学習内容をしっかりと復習して、理解していきましょう。また，数学では前の学年の同じ時期に関係のある内容を学習している場合が多くあります。１年生や２年生の教科書を見返したり、わかるところまで戻って復習したりしてみましょう。
○まずは自分で考えよう
　数学を学習すると色々な角度から物事を考えることができるようになります。しかし，その力をつけるためには自分の頭を使って考えなければいけません。難しい問題だからといってすぐにあきらめるのではなく、根気よく取り組みましょう。３年生は高校入試があるので、応用問題にも積極的に取り組みましょう。
○友だちの考え方を聞こう
　自分の力だけでは解くことができない問題もたくさんあります。根気よく取り組んでもわからない場合は、解けている友達の考え方を聞いて、新しい考え方を増やしましょう。友だちと一緒に色々と考えてみることも大切です。
○わかりやすく説明したり、教えたりできるようになろう
　自分の練習問題を解き終えたら、他の人に説明してみましょう。また、助けを求めている人の質問に答えましょう。教えることで自分の理解がいっそう深まります。

教科	社会（地理的分野・歴史的分野）	学年	第１学年	担当者	

〔社会科　教科目標〕

（１）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
（２）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
（３）社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深める。

〔学習内容〕

	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	【地理的分野】 世界と日本の地域構成 １　世界の姿 ２　日本の姿 世界のさまざまな地域 １　世界各地の人々の生活 【歴史的分野】 私たちと歴史 古代までの日本と世界 １　人類の始まりと文明 ２　日本列島の人々と国家の形成	【地理的分野】 ・経度と緯度を使って地球儀や地図上の位置を表現できる。 ・大陸や海洋、６つの州の位置関係、世界の気候帯、世界の中での日本の位置、日本の領域とその特色等について理解する。 ・それぞれの気候帯での暮らしの特色やその変化を、自然環境などと結びつけて表現できる。 【歴史的分野】 ・年代の表し方や時代の区分について理解する。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表にまとめたりする技能を身につける。 ・人類の誕生から奈良時代までの歴史の流れを理解する。その時代の資料をもとに歴史的事象について説明できる。またその原因と結果を表現できる。
２学期	【地理的分野】 世界の様々な地域 ２　世界のさまざまな地域 ①アジア州　②ヨーロッパ州 ③アフリカ州　④北アメリカ州 【歴史的分野】 古代までの日本と世界 ３　古代国家の展開 中世の日本 １　古代から中世へ ２　鎌倉幕府の成立	【地理的分野】 ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 ・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。 ・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 【歴史的分野】 ・古代の文化と東アジアとの関わり、武家社会の政治とユーラシアの交流について理解する。 ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現する。
３学期	【地理的分野】 世界の様々な地域 ２　世界のさまざまな地域 ⑤南アメリカ州　⑥オセアニア州 【歴史的分野】 中世の日本 ３　室町幕府と下剋上 近世の日本と世界 １　中世から近世へ	【地理的分野】 ・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 ・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。 ・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 【歴史的分野】 ・武家社会の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成、安土桃山時代から江戸時代までの歴史の流れを理解する。 ・世界（アジア、ヨーロッパ）の動きと日本の歴史の関連を理解する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・社会的事象の意義や特色、相互の関連性を理解するための知識を身につけ、平素から各種資料に親しみをもち、社会的事象に関する情報を取捨選択し、活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	・社会的事象から、自ら問題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ、公正に判断している。	・社会的事象に対する関心を深めるとともに、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え、自覚をもって責任を果たそうとしている。 ・社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	定期テスト、確認テスト、各種レポート	定期テスト、各種レポート 授業中の気づきやまとめ	授業中の取組、ふり返りシート 課題や自主学習への取組

〔学習のポイント〕

○授業に集中しよう
　授業の中で、自分の意見を持ったり、友達と意見交換したりすることが大切です。理解できなかったところは、その日のうちに解決する努力をしましょう。
○自分で考えよう
　教科書や資料を手がかりに、自分の意見をもちましょう。その意見を交流することでさらに深めていくことが大切です。
○復習をしっかりしよう
　授業の内容はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認し、できていない部分は自主ノートなどで復習しましょう。

教科	社会（地理的分野・歴史的分野）	学年	第２学年	担当者	

〔社会科　教科目標〕

（１）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
（２）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
（３）社会的事象について　、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深める。

〔学習内容〕

	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	【地理的分野】 日本の様々な地域 １　地域調査の手法 ２　日本の地域的特色 【歴史的分野】 近世の日本と世界 ２　江戸幕府の成立と東アジア ３　産業の発達と元禄文化 ４　幕府政治の改革と農村の変化	【地理的分野】 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身につける。 ・日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。 ・地域区分を、地域の共通点、差異、分布などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する。 【歴史的分野】 ・世界の動きと統一事業、江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と町人文化、幕府の政治の展開について理解する。 ・交易の広がりとその影響、統一事業の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目し、事象を相互に関連付け、近世の社会の変化について多面的・多角的に考察し、表現する。
２学期	【地理的分野】 日本の様々な地域 ３　日本の諸地域 ①九州地方　②中国・四国地方 ③近畿地方　④中部地方 ⑤関東地方 【歴史的分野】 日本の近代化 １　欧米の発展とアジアの植民地化 ２　近世から近代へ ３　近代国家へのあゆみ	【地理的分野】 ・いくつかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 ・日本の諸地域において、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 【歴史的分野】 ・欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成について理解する。 ・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
３学期	【地理的分野】 日本の様々な地域 ３　日本の諸地域 ⑥東北地方　⑦北海道地方 地域の在り方 【歴史的分野】 日本の近代化 ４　立憲制国家の成立 ５　日清・日露の戦争と東アジアの動き ６　近代の日本の社会と文化	【地理的分野】 ・いくつかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 ・日本の諸地域において、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地域の実態や課題解決のための取組、課題解決のための手法などを理解する。 ・地域の在り方を知己の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について、多面的・多角的に考察し、表現する。 【歴史的分野】 ・議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について理解する。 ・議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響などに着目し、近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。

〔評価の観点と評価の方法〕〈歴史的分野〉

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・社会的事象の意義や特色、相互の関連性を理解するための知識を身につけ、平素から各種資料に親しみをもち、社会的事象に関する情報を取捨選択し、活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	・社会的事象から、自ら問題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ、公正に判断している。	・社会的事象に対する関心を深めるとともに、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え、自覚をもって責任を果たそうとしている。 ・社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	定期テスト、確認テスト、各種レポート	定期テスト、各種レポート 授業中の気づきやまとめ	授業中の取組、ふり返りシート 課題や自主学習への取組

〔学習のポイント〕

〇授業に集中しよう
　授業の中で、自分の意見を持ったり、友達と意見交換したりすることが大切です。理解できなかったところは、その日のうちに解決する努力をしましょう。
〇自分で考えよう
　教科書や資料を手がかりに、自分の意見をもちましょう。その意見を交流することでさらに深めていくことが大切です。
　時代の流れを把握し、歴史的事象の１つひとつに原因と結果があるので、自分なりにまとめましょう。
〇復習をしっかりしよう
　授業の内容はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認をし、できていない部分は自主ノートなどで復習をしましょう。

教科	社会（歴史的分野・公民的分野）	学年	第３学年	担当者	

〔社会科　教科目標〕

（１）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
（２）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
（３）社会的事象について　、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深める。

〔学習内容〕

	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	【歴史的分野】 二度の世界大戦と日本 １　第一次世界大戦と戦後の世界 ２　大正デモクラシーの時代 ３　世界恐慌と日本 ４　第二次世界大戦と日本 現代の日本と世界 １　平和と民主化 ２　冷戦下の世界と経済大国化する日本 ３　グローバル化と日本の課題 【公民的分野】 私たちと現代社会 １　私たちが生きる現代社会と文化の特色 ２　現代社会を捉える枠組み	【歴史的分野】 ・第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について理解する。 ・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などについて着目し、事象を相互に関連付け、近代の社旗の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目し、事象を相互に関連付け、現代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 【公民的分野】 ・現代社会の特色である少子高齢化、情報化、グローバル化について理解する。 ・少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代社会の見方、考え方の基礎となる枠組みとして、対立、合意、公立、公正について理解する。 ・社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。
２学期	【公民的分野】 私たちと政治 １　人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 ２　民主政治と政治参加 私たちと経済 １　市場の働きと経済 ２　国民の生活と政府の役割	【公民的分野】 ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。 ・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることを理解する。 ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われている意義について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。 ・市場経済の基本的な考え方や市場における価格の決まり方や資源の分配について理解する。 ・個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、少子高齢化における社会保障の充実、消費者の保護等について、それらの意義を理解する。 ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に対して、国や地方公共団体が果たす役割について、多面的・多角的に考察し、表現する。
３学期	【公民的分野】 私たちと国際社会の諸課題 １　世界平和と人類の福祉の増大 ２　よりよい社会を目指して	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。 ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代社会の見方、考え方を働かせ、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して、政治や経済などに関わる制度や仕組みの意義や働きについて、理解を深め、多面的・多角的に考察し、表現する。

〔評価の観点と評価の方法〕〈公民的分野〉

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・社会的事象の意義や特色、相互の関連性を理解するための知識を身につけ、平素から各種資料に親しみをもち、社会的事象に関する情報を取捨選択し、活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現している。	・社会的事象から、自ら問題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ、公正に判断している。	・社会的事象に対する関心を深めるとともに、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え、自覚をもって責任を果たそうとしている。 ・社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	定期テスト、確認テスト、各種レポート	定期テスト、各種レポート 授業中の気づきやまとめ	授業中の取組、ふり返りシート 課題や自主学習への取組

〔学習のポイント〕

〇授業に集中しよう
　授業をしっかり聞くことが大切です。理解できなかったところは、その日のうちに解決する努力をしましょう。
〇自分で考えよう
　教科書で答えを探すのではなく、まずは自分で考える習慣をつけましょう。
〇ニュースをよく見よう
　公民的分野の学習内容は現在の生活に深く結びついています。ニュースを知ることで、現在の日本や世界が抱える問題やその解決へのヒントが隠されています。
　またニュースを見ることで、身近な事例に気付くことができます。
〇復習をしっかりしよう
　授業の内容はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認をし、できていない部分は自主ノートなどで復習をしましょう。

教科	理科	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	**自然の中にあふれる生命**	・ルーペや顕微鏡などの観察器具の操作、観察記録のしかたを身につける。生物の分類の仕方の基礎を身につける。身近な生物に興味、関心をもつ。
	いろいろな生物とその共通点	
	１　植物の特徴と分類	・植物の体の基本的なつくりを理解する。植物を分類できるようになる。
	２　動物の特徴と分類	・動物の体の基本的なつくりを理解する。動物を分類できるようになる。
	身のまわりの物質	
	１　いろいろな物質とその性質	・物質にはそれぞれにしかない性質と共通している性質があることを理解する。ガスバーナーや電子てんびんなどの操作、記録のしかたを身につける。
	２　いろいろな気体とその性質	・気体の種類による特性を理解する。気体を発生させる方法や集め方を身につける。
２学期	３　水溶液の性質	・物質が水に溶けるときのようすを、粒子のモデルを使って理解する。水溶液から溶質をとり出す実験を行い、溶解度との関連を考える。
	４　物質のすがたとその変化	・状態変化と質量や体積の関係について理解する。沸点や融点について理解する。沸点の違いによって物質を分離できることを理解する。
	光・音・力による現象	・光の反射、屈折の実験を行い、規則性を見つける。凸レンズによってできる像の位置、大きさ、向きと物体の位置の関係を見つける。
	１　光による現象	
	２　音による現象	・音の発生のしくみや速さについて理解する。音の大きさと高さに関係しているものを見つける。
３学期	３　力による現象	・力のはたらきについて理解する。矢印を使った力の表し方を理解する。２つの力がつり合う条件を見つける。
	活きている地球	・大地の成り立ちを理解する。観察器具の基本的な扱いを身につける。
	１　身近な大地	・地震のゆれの特徴を理解する。地震のゆれの伝わり方の規則性を見つける。地震の原因をプレートの動きと関連づけて理解する。
	２　ゆれる大地	・火山の活動とマグマの性質の関係を考える。火成岩の特徴を、でき方と関連して理解する。
	３　火をふく大地	・地層の重なり方や広がり方の規則性、岩石や化石をもとに地層ができた時代や環境を推測する。地層のでき方を理解する。大地からの恵みや災害について理解する。
	４　語る大地	

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な操作や技能を身につけている。	自然の事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり，見通しをもって計画したり、振り返り見直し改善したりするなど，自ら科学的に探究しようとしている。
評価の方法	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実技テスト　実験・観察のレポート	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実験・観察のレポート	授業中の取組　　課題の取組 実験・観察のレポート　自主ノートの取り組み

〔学習のポイント〕

○積極的に実験や観察に取り組もう

　実験や観察の技能はやらないと身につきません。誰かに任せるのではなく積極的に実験や観察に参加しましょう。

○自分で考えよう

　教科書で答えを探すのではなく、まずは自分で考えるくせをつけましょう。特に実験の前の予想や、実験の結果から考察する場面で頑張りましょう。

○復習をしっかりしよう

　実験や観察はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認をし、できていない部分は自主ノートなどで復習をしましょう。

教科	理科	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期		単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	理科A	**化学変化と原子・分子** １　物質の成り立ち ２　物質の表し方 ３　さまざまな化学変化	・物質を分解する実験を通して、物質は原子や分子からできていることを認識する。 ・化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようにする。 ・実験を通し、化学変化の前後での物質の変化を理解するとともに、原子・分子モデルを用いて、説明できるようにする。また、酸化と還元が同時に起きていることや、熱の出入りについても理解する。
	理科B	**生物の体とのつくりとはたらき** １　生物の体をつくるもの ２　植物の体のつくりとはたらき ３　動物の体のつくりとはたらき	・生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を理解する。 ・植物の体のつくりについての観察を行い、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。 ・消化や呼吸や血液の循環について観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れて運搬している仕組みを実験を通して理解する。また、不要な物質の排出するしくみがあることも理解する。
２学期	理科A	**（化学変化と原子・分子）** ４　化学変化と物質の質量 **電流とその利用** １　電流とその利用	・化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見出し、実験結果の処理について習得する。 ・回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について、規則性を見出し、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。
	理科B	**（生物の体とのつくりとはたらき）** ４　動物の行動のしくみ **地球の大気と天気の変化** １　地球をとり巻く大気のようす ２　大気中の水の変化	・動物が外界の刺激に反応する様子を観察し、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連付けて理解する。 ・大気の存在を認識するとともに、身のまわりの大気の状態を継続的に観測し、気象要素の変化と天気の変化の関係を見出す。 ・霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連付けて理解する。また、水の循環についても理解する。
３学期	理科A	**（電流とその利用）** ２　電流の正体 ３　電流と磁界	・静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見出し、真空放電の実験から電流の正体について理解する。 ・電流の磁界作用や電流と時間との相互作用を理解し、直流と交流の違いを理解する。
	理科B	**（地球の大気と天気の変化）** ３　天気の変化と大気の動き ４　大気の動きと日本の四季	・気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を地球規模の大気の動きの一部として理解する。 ・日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な操作や技能を身につけている。	自然の事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり，見通しをもって計画したり、振り返り見直し改善したりするなど，自ら科学的に探究しようとしている。
評価の方法	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実技テスト　実験・観察のレポート	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実験・観察のレポート	授業中の取組　課題の取組 実験・観察のレポート　自主ノートの取り組み

〔学習のポイント〕

〇積極的に実験や観察に取り組もう

　実験や観察の技能はやらないと身につきません。誰かに任せるのではなく積極的に実験や観察に参加しましょう。

〇自分で考えよう

　教科書で答えを探すのではなく、まずは自分で考えるくせをつけましょう。特に実験の前の予想や、実験の結果から考察する場面で頑張りましょう。

〇復習をしっかりしよう

　実験や観察はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認をし、できていない部分は自主ノートなどで復習をしましょう。

教科	理科	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期		単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	理科A	**化学変化とイオン** １　水溶液とイオン ２　電池とイオン	・イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。 ・電池の基本的な仕組みが説明できるようにする。
	理科B	**生命の連続性** １　生物のふえ方と成長 ２　遺伝の規則性と遺伝子 ３　生物の種類の多様性と進化	・観察や実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。 ・生物のふえ方の違いを理解し、細胞分裂の観察を通して、生物の成長と細胞分裂について理解する。 ・親から子へ形質が伝わることと、その規則性について理解する。 ・生物の多様性について、体のつくりと関連づけて、進化の概念を身につける。
２学期	理科A	**（化学変化とイオン）** ３　酸・アルカリと塩 **運動とエネルギー** １　力の合成と分解 ２　物体の運動	・酸とアルカリのそれぞれの性質がイオンによることを見出させ、中和の反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。 ・重力と浮力のつり合いの関係から、浮き沈みを理解させる。作図により合力を求めることができる。 ・記録タイマーを使って、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につけ、力と運動の関係を理解する。
	理科B	**宇宙を観る** １　宇宙の天体 ２　太陽と恒星の動き ３　月と金星の動きと見え方	・太陽の観察の技能を身につける。惑星や恒星の特徴や太陽系の構造を理解する。 ・天体の動きを観察する技能を身につけ、天体の日周運動が地球の自転によるものであることを理解し、地球の公転や地軸の傾きにより、星座の位置や太陽の南中高度が変化することを理解する。 ・月や金星の見え方の観察の技能を身につけ、天体の運動を関連づけながら理解する。
３学期	理科A	**（運動とエネルギー）** ３　仕事とエネルギー ４　多様なエネルギーとその移り変わり ５　エネルギー資源とその利用	・仕事の定義を理解し、仕事の原理を見出す。また、力学的エネルギーが保存されることを理解する。 ・身のまわりにある多様なエネルギーは移り変わり、総量は一定に保たれることを理解する。 ・人間は多様なエネルギーを消費しており、将来にわたって資源の確保や有効な利用、環境保全の重要性を認識する。
	理科B	**自然と人間** １　自然界のつり合い ２　さまざまな物質の利用と人間 ３　科学技術の発展 ４　人間と環境 ５　持続可能な社会を目指して	・自然界では生物が食物連鎖を通して、つり合いを保っていることを見出し、理解する。 ・日常生活や社会では、さまざまな物質が使われており、限られ物質を有効利用する必要があることを理解する。 ・科学技術の発展の過程について理解し、これからの科学技術の発展の方向性を、科学的根拠をもって検討する ・自然と人間の関わり方について、科学的に考察して判断する能力を身につける。 ・持続可能な社会をつくることの重要性を科学的な根拠をもって認識する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な操作や技能を身につけている。	自然の事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり，見通しをもって計画したり、振り返り見直し改善したりするなど，自ら科学的に探究しようとしている。
評価の方法	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実技テスト　実験・観察のレポート	授業中の取組　　定期テスト 小テスト　実験観察のレポート	授業中の取組　課題の取組 実験観察のレポート　自主ノートの取組

〔学習のポイント〕

○積極的に実験や観察に取り組もう

　実験や観察の技能はやらないと身につきません。誰かに任せるのではなく積極的に実験や観察に参加しましょう。

○自分で考えよう

　教科書で答えを探すのではなく、まずは自分で考えるくせをつけましょう。特に実験の前の予想や、実験の結果から考察する場面で頑張りましょう。

○復習をしっかりしよう

　実験や観察はその日のうちに復習をしましょう。自分が理解できているかはワークを使いながら確認をし、できていない部分は自主ノートなどで復習をしましょう。

教科	英語	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。
（2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。
（3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	Phonics Unit 0　Nice to Meet You	・アルファベットの音を口に出し、英単語の成り立ちを学ぶことができる。
	Unit 1　Hello, Everyone!	・自分のことを伝えたり、相手のことをたずねたりすることができる。（be 動詞と一般動詞）
	Unit 2　Our New Teacher	・身近な人やものについて紹介したり，たずねたりすることができる。（This ,That, He, She is /can ）
	Unit 3　Our School	・知らないものや人についてたずねたり、いつ・どこなのかをたずねたりすることができる。（疑問詞 where when / What / How）
	Unit 4　Friends in New Zealand	・数や時刻、好きなものについてたずねたり、指示や助言をしたりすることができる。（命令文 / what＋名詞 / How many ）
2学期	Stage Activity 1 “All about Me” Poster	・自分の好きなことについて，つながりのある文章を書くことができる。
	Unit 5　My Brother in Hawaii	・自分と相手以外の人やものなどについて，たずねたり伝えたりすることができる。（3 人称単数現在形）
	Unit 6 A Rakugo Performer from the U.K.	・自分と相手以外の人について話したり、だれのものかをたずねたりすることができる。（代名詞 /　疑問詞 which whose）
	Real Life English 友達の家で	・身近な人に許可を求めたり，依頼することができる。（Can I～? / Can you～?）
3学期	Unit 7 An Online Tour of the U.K.	・今していることについて説明したり，たずねたりすることができる。（現在進行形　/感嘆文）
	Real Life English 道案内	・徒歩での道順をたずねたり、教えたりすることができる。(I’ m looking for-)
	Unit 8 Think Globally, Act Locally	・したいことや，する必要のあることなどについて説明したり，たずねたりすることができる。（不定詞名詞的用法　/ look+形容詞）
	Real Life Eglish レストラン	・レストランなどで，注文をしたり質問に答えたりすることができる。
	Unit 9　Winter Vacation	・過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
	Unit 10　This Year’s Memories	・過去の状態や気持ち，過去のある時点でしていたことについて説明することができる。（be 動詞過去形 / There is are / 過去進行形）
	Real Life English 病院にて	・症状やこれまでの出来事などを伝えることができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。 学習事項を用いた文の理解をもとに、話す技能を身につけている。また、つながりのある文を書く技能を身につけている。	対話や体験談のスピーチなど日常的な話題や海外の生活について話された文章を聞いて、必要な情報を聞き取ったり書いたり読み取っている。 関心のある事柄や体験談、海外の生活などについて相手からの質問に対してその場で適切に応答したり、関連する質問をしたりしている。	話し手の意向を正確に把握するために、主体的に必要な情報を聞き取ろうとしたり、読み取ろうとしている。また、相手からの質問に対してその場で適切に応答したり、主体的に関連する質問をしたりしようとしている。聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を書こうとしている。
評価の方法	定期テスト 小テスト インタビューテスト 音読　パフォーマンステスト　等	定期テスト 単元テスト　インタビューテスト writing 活動　パフォーマンステスト　音読　等	授業中の様子　 決まった範囲の小テスト インタビューテスト　パフォーマンステスト 課題や自主学習の取組　等

〔学習のポイント〕

○積極的に声に出して授業に参加しましょう。 間違いを恐れず、小学校の時に学んだことも思い出しながら友達や ALT や先生たちと会話をしましょう。

○学んだ英語を自分のこととして表現してみましょう。話すこと、書くこと両方表現できるようになりましょう。

○単語練習だけでは英語は身につきません。習ったことを自分のことについて表現する道具として活用してみましょう。

○復習をしっかりしましょう。 教科書を音読することが英語らしさを身に着ける基本です。たくさん読んでいるうちに書けるようになります。

教科	英語	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。
（2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。
（3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	Unit 0　My Spring Vacation	・クラスメートのことをよく知るために、これまでに学んだことを用いて、自分が経験したことを伝え合うことができる。（過去形）
	Unit 1　What can we experience on a trip?	・旅行の予定を説明したり、海外で経験できることなどについて伝えたりすることができる ・予定についてたずねたり伝えたりすることができる。（be going to/ 助動詞 will / SVOO / SVOC）
	Unit 2　What is local food？	・好きな食べ物について、理由や考えと共に紹介することができる。（接続詞 when / if / because / that）
	Unit 3　What kind of job are you interested in？	・将来像や夢などについて考え、取り組んでいきたいことについて説明することができる。 （不定詞＜副詞的用法 / 形容詞的用法＞ / It is ～+ to+ 動詞の原形）
	Let's Read1　History of Clocks	・説明文を読み、時計についての歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。
2学期	Unit 4　What is important in a homestay？	・海外との生活習慣や文化のちがいを知り、取るべき行動についての考えを伝えることができる。 （have to / must / 動名詞）
	Unit 5　What design is good for everyone？	・だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えることができる。 （疑問詞+to / 主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＋動詞の原形 / 主語＋be 動詞＋形容詞＋that）
	Unit 6　How can we make a good presentation?	・身近なトピックについて調査を行い、データを比べて発表することができる。 （比較＜比較級 / 最上級 / better と best / as＋原級＋as＞）
	Let's Read2　A Glass of Milk	・物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちを込めて音読したりすることができる。
3学期	Unit 7　What are World Heritage sites and their problems?	・世界遺産について知り、その特徴や価値を説明することができる。（受け身 / 助動詞つき受け身） ・各地の世界遺産を紹介することができる。
	Let's Read3　Pictures and Our Beautiful Planet	・人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	過去形・助動詞・接続詞・不定詞・動名詞・比較表現・受け身などを用いた文の意味、文の形や用法を理解し、文章の要点を捉える技能を身につけている。 また、それらの情報や気持ちなど整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身につけている。また、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く技能を身につけている。	話の内容を把握して適切に応答するために、予定や将来の夢などの日常的な話題や海外の文化について話された文章を聞いたり読んだりして、話の要点を捉えている。 相手のことを理解したり自分のことを知ってもらったりするために、予定や将来の夢、好きな食べ物など日常的な話題や海外の文化について伝えあったり、書いている。	予定や将来の夢などの日常的な話題や海外の文化について話された文章を聞いたり読んだりして、話し手に配慮しながら、主体的に話の要点を捉えようとしている。 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。 簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を主体的に書こうとしている。
評価の方法	定期テスト 小テスト インタビューテスト 音読　発表の様子　パフォーマンステスト　等	定期テスト インタビューテスト パフォーマンステスト　Writing 活動 プレゼンテーション　　等	授業中の様子　　範囲が決まった小テスト インタビューテスト　パフォーマンステスト プレゼンテーション　ペア・グループワークの様子 身近なことを自分が知っている英語で話したり、書いたりして伝えようとする様子　　課題や自主学習の取組　等

〔学習のポイント〕

・積極的に声に出して授業に参加しましょう。
・間違いを恐れず、今まで学んだことも思い出しながら友達や ALT や先生たちと会話をしましょう。
・学んだ英語を自分のこととして表現してみましょう。話すこと、書くことの両方表現できるようになりましょう。
・単語練習だけでは英語は身につきません。自分のことを表現する道具として活用しましょう。
・復習をしっかりしましょう。
・教科書を音読することが英語らしさを身につける基本です。たくさん読んでいるうちに書けるようになります。

教科	英語	学年	第3学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。
（2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。
（3）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	Unit 0　Discover a New Side of Classmates Unit 1 What is special about Japanese pop culture? Unit 2　How do you choose your clothes? Unit 3　How can we save animals? Stage Activity1 Discover Japan	・これまでに学んだことを使って、あるテーマについて書かれたクイズ形式のレポートを読むことができる。 ・日本のポップカルチャーの魅力について、経験や感想と共に伝えることができる。（現在完了/経験/疑問） ・人や環境にやさしいファッションの取り組みについて説明することができる。（現在完了/完了/現在完了進行形） ・絶滅のおそれのある動物について知り、大切なことや取るべき行動について伝えることができる。 ・日本や郷土の文化などについて、詳しい情報を加えて説明することができる。
2学期	Unit 4 How can we help each other in a disaster? Real Life English 町中での手助け Unit 5　What makes a good leader?	・防災・安全への意識を高め、地域の一員として取るべき行動を考えて伝えあうことができる。（間接疑問文/後置修飾） ・相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり応じたりすることができる。 ・ガンディーの功績を知り、平和や人権の意味について考えることができる。（関係代名詞 which/that/who）
3学期	Unit 6 What does it mean to be a global citizen? 入試対策	・国をこえて助け合うことの大切さを知り、願いや思いを伝えることができる。（仮定法） ・高校入試に向けて既習事項を思い出し、演習の力をつけることができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現在完了形や後置修飾、仮定法などを用いた文の意味・形・用法・を理解している。 現在完了形や後置修飾、仮定法などを用いた文の理解をもとに、社会的な話題について話されたり、書かれたりした短い説明の要点を捉える技能を身につけている。また、それらの話題について考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合ったり、書いたりする技能を身につけている。	理解した内容を英語で説明するために、海外の文化や社会的な話題についての会話や説明などを聞いたり、読んだりして話の要点を捉えている。 相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりするために、海外の文化や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、読み取ったことや感じたこと、考えたことを伝えあったり、書いたりしている。	海外の文化や社会的な話題についての会話や説明などを聞いてたり読んだりして、主体的に話の要点を捉えようとしている。 相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりするために、海外の文化や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、主体的に英語を用いて読み取ったことや感じたこと、考えたことを伝え合おうとしたり書こうとしている。
評価の方法	定期テスト 小テスト インタビューテスト 音読　発表の様子　パフォーマンステスト　等	定期テスト インタビューテスト パフォーマンステスト　Writing 活動 プレゼンテーション　等	授業中の様子　範囲が決まった小テスト インタビューテスト　パフォーマンステスト プレゼンテーション　ペア・グループワークの様子 課題や自主学習の取組　等

〔学習のポイント〕

・積極的に声に出して授業に参加しましょう。
・間違いを恐れず、今まで学んだことも思い出しながら友達や ALT や先生たちと会話をしましょう。
・学んだ英語を自分のこととして表現してみましょう。話すこと、書くことの両方表現できるようになりましょう。
・単語練習だけでは英語は身につきません。自分のことを表現する道具として活用しましょう。
・復習をしっかりしましょう。
・教科書を音読することが英語らしさを身につける基本です。たくさん読んでいるうちに書けるようになります。
・発表

教科	音楽	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

(1)曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。

(2)音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	●器楽 ・わくわくオーケストラ教室 ●歌唱 ・「山南中学校校歌」 ・「浜辺の歌」 ●鑑賞 ・「春　第１楽章」 ・イメージと音楽	 ・オーケストラの楽器の音色や役割について理解し、響きのよさや美しさを味わって聴く。 ・新しい校歌に親しむとともに、豊かな響きのある歌声づくりや変声期について理解する。 ・曲の構成や曲想の変化を生かして歌う。 ・ソネットを手がかりに、情景をイメージしながら、楽曲のよさや美しさを味わって聴く。 ・音楽の要素と楽曲のイメージとの密接な結びつきについて理解する。
２学期	●器楽 ・箏曲「六段の調」 ●歌唱 ・合唱コンクール　クラス曲（曲未定） ・「赤とんぼ」 ●鑑賞 ・「魔王」	 ・箏の音色や響きを味わい、基本的な奏法を身につけて演奏する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・歌詞の構成や内容から作詞者の思いを理解し、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・場面の様子や物語の展開などをイメージし、表現の工夫について理解する。
３学期	●歌唱 ・合唱（曲未定） ●鑑賞 ・日本の民謡 ・「平調　越天楽」 ・「アジアの諸民族の音楽」	 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・人々の暮らしの中から生まれた日本の民謡を聴こう。 ・楽器の特徴やその背景となる文化や歴史について理解し、雰囲気を味わって聴く。 ・アジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、それぞれの音楽のよさや美しさを味わって聴く。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を甘受している。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 ・音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容 授業での取組	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容、レポート 授業での取組	授業での取組 提出物の取組、ワークシートの記入内容

〔学習のポイント〕

○1 回 1 回の授業に積極的に取り組もう。

毎時間の授業を大切にし、歌や楽器が苦手でも、どのようにすれば上手くできそうか、友達同士で協力して考えながら、粘り強く取り組みましょう。

○「気づき」を大切にしよう。

気づいたことや感じたこと、考えたことをしっかりと書きましょう。授業中に配布したプリントは、全て評価しています。

○定期テストの準備をしっかりしよう。

ワーク等を活用して計画的に取り組みましょう。

教科	音楽	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

(1)曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。

(2)音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
1学期	●器楽 ・「打楽器のための小品」 ●歌唱 ・「夏の思い出」 ・「サンタルチア」 ●鑑賞 ・「フーガ　ト短調」 ・「交響曲第５番　ハ短調」	 ・音符や休符を理解して、リズム合奏する。 ・歌詞の表す情景や心情と曲想との結び付きを感じ取って、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・曲種に応じた発声について理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・フーガ形式について理解するとともに、パイプオルガンの響きのよさや楽曲の美しさを味わって聴く。 ・ソナタ形式について理解するとともに、オーケストラの響きの良さや楽曲の美しさを味わって聴く。
2学期	●器楽 ・箏（合奏） ●歌唱 ・合唱コンクール　クラス曲（曲未定） ・「荒城の月」 ●鑑賞 ・「アイーダ」	 ・箏の新しい奏法について学習し、パートの役割を理解しながら合奏する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を自分達で創意工夫して歌う。 ・文語体の歌詞と短調の旋律が生み出す独特な雰囲気を味わいながら、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・場面の状況や登場人物の心理と音楽の要素との関わりについて理解し、よさや美しさを味わって聴く。
3学期	●歌唱 ・合唱（曲未定） ●鑑賞 ・文楽「新版歌祭文」 ・歌舞伎「勧進帳」	 ・曲に込められた思いを理解し、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・文楽の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深めながら鑑賞する。 ・音楽、舞踊、演技が一体になった歌舞伎のよさや美しさを味わう。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を甘受している。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 ・音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容 授業での取組	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容、レポート 授業での取組	授業での取り組み 提出物の取組、ワークシートの記入内容

〔学習のポイント〕

○1回1回の授業に積極的に取り組もう。

毎時間の授業を大切にし、歌や楽器が苦手でも、どのようにすれば上手くできそうか、友達同士で協力して考えながら、粘り強く取り組みましょう。

○「気づき」を大切にしよう。

気づいたことや感じたこと、考えたことを、しっかりと書きましょう。授業中のプリントは、毎時間回収して評価しています。

○定期テストの準備をしっかりしよう。

ワーク等を活用して計画的に取り組みましょう。

教科	音楽	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

(1)曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。

(2)音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	●器楽 ・「打楽器のための小品」 ●歌唱 ・「ＨＥＩＷＡの鐘」 ・「花」 ・「花の街」 ・「ブルタバ（モルダウ)」	 ・音符や休符を理解して、リズム合奏する。 ・曲に込められた思いを理解し、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・歌詞を表す情景をイメージして、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・歌詞や曲の背景を理解して、歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・歴史的・社会的背景や作曲者の思いを知り、標題のイメージと音楽の構造との関わりを理解して聴く。
２学期	●歌唱 ・合唱コンクール　クラス曲（曲未定） ・「旅立ちの日に」 ●鑑賞 ・「ボレロ」 ・能「敦盛」・狂言	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を自分たちで創意工夫して歌う。 ・曲想を生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・楽器の音色に親しみながら、オーケストラの響きを味わう。 ・能や狂言の生まれた背景や音楽的特徴を知り、そのよさや美しさを味わって鑑賞する。
３学期	●歌唱 ・「早春賦」 ・卒業式の合唱（曲未定）	 ・歌詞の表す情景をイメージして、拍子感・強弱などの特徴をとらえながら、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 ・音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容 授業での取組	定期テスト、小テスト、実技テスト(作品含む) ワークシートの記入内容、レポート 授業での取組	授業での取組 提出物の取組、ワークシートの記入内容

〔学習のポイント〕

○1 回 1 回の授業に積極的に取り組もう。

毎時間の授業を大切にし、歌や楽器が苦手でも、どのようにすれば上手くできそうか、友達同士で協力して考えながら、粘り強く取り組みましょう。

○「気づき」を大切にしよう。

気づいたことや感じたこと、考えたことを、しっかりと書きましょう。授業中のプリントは、毎時間回収して評価しています。

○定期テストの準備をしっかりしよう。

ワーク等を活用して計画的に取り組みましょう。

教科	美術	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。

（２）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や考え方をひろげたりすることができる。

（３）楽しく美術の活動に取組創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	オリエンテーション スケッチ デッサン 色の学習	・身近なものや愛着のあるものを見つめ、感じ取った形や色彩、明暗、質感などの特徴や美しさをもとに、表現方法を工夫して、絵で表現することができる。 ・主題をもとに、全体と部分などの関係やバランス、構図など構想を練ることができる。 ・鉛筆（描画材）の特性を生かして、意図に応じて工夫して表すことができる。 ・作家の作品や互いの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫について話し合うことができる。 ・色の特性、見え方、絵の具での表現方法などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持って表している。
２学期	デザインとは レタリング 文字のデザインの制作 鑑賞：原始の美術	・文字や文字の意味するものの形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などから、伝達する内容を全体のイメージで捉えることを理解している。 ・文字の意味やイメージをもとに、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考え、表現する構想を練っている。文字の意味と分かりやすさから表現の意図と工夫などについて考えるなどし、見方や感じ方を広げている。 ・より印象的に伝えるために色彩、画面構成を検討し、材料や用具の特性を生かして制作することができる。 鑑賞 ・日本及び諸外国の文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り人々の長いや、作者の意図の工夫、美術文化について考えるなどして、見解や感じ方を広げている。
３学期	鑑賞：彫刻について 彫刻制作（守り神を作ろう）	・全体のバランス、動きや量感、質感などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に全体のイメージでとらえることを理解している。 彫刻制作 ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。 ・表したいイメージなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現方法を工夫して表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、木の特性と美しさの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 身近なものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫したりして表そうとしている。
評価の方法	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト

〔学習のポイント〕

・授業に集中して取り組もう。

・学習内容や習った表現技法を復習するなどして身につけよう。

・普段から身の周りのものや風景、美術作品などに興味を持とう。

教科	美術	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。

（２）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。

（３）主体的に美術の活動に取組創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	オリエンテーション 鑑賞：空想の世界 心の中の世界を表現する	鑑賞 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして美意識を高め見方や感じ方を深めている ・描画材の特徴を生かし、意図に応じて自分の表現方法追求し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現している。 ・空想や心に広がる世界を元に主題を生み出し、形、描くものや配置などの効果を考え、創造的な攻勢を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
２学期	食品サンプル 「日本の美意識」食と美術 鑑賞：浮世絵 動物のスクラッチ ・木枠の制作（木彫） ・スクラッチ	食品サンプル ・和菓子や扇子などの自然や季節感を取り入れた日本の伝統美術や工芸品のよさや特性を理解する。主題を基に材料や用具の特性を生かし、見通しを持って表すことができる。 ・自然の良さや季節感を取り入れた日本の伝統美術や工芸品の良さや特性について理解する。 鑑賞 ・浮世絵の表現の特色や美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えることができる。 ・構図や色彩が感情にもたらす効果や、線、彫りなどの特徴を基に、作品の印象などを全体のイメージや浮世絵の作風などで捉えることを理解している。 木枠の制作 ・木の質感や特性、形や色彩などが感情にもたらす効果や、ぬくもりなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 ・木の加工方法などを身につけ、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら、見通しを持って表している。 ・木の特性や美しさなどをもとに、中に入れる作品などとの調和を考え、表現する構想を練っている。
３学期	・スクラッチ 鑑賞：印象派とジャポニズム	スクラッチ ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。 ・動物の特徴を基に形や色彩などの効果を考え創造的な構成を工夫し、表現する構想を練っている。 鑑賞 ・印象派やジャポニズムの表現の特色や美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えることができる。 ・構図や色彩が感情にもたらす効果や、線、彫りなどの特徴を基に、作品の印象などを全体のイメージや印象派の表現技法などから捉えることを理解している。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさと調和、美術の働きなどについて独創的、総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト

〔学習のポイント〕

・授業に集中して取り組もう。

・学習内容や習った表現技法を復習するなどして身につけよう。

・普段から身の周りのものや風景、美術作品などに興味を持とう。

教科	美術	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。
（２）自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
（３）主体的に美術の活動に取組創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	オリエンテーション 鑑賞：平和と美術 ピカソとゲルニカ ヒロシマ・アピールズ	鑑賞 ・作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなど見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・時代や社会背景なども視野に入れて作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えることができる。
	命を想うポスターの制作 ポスターの制作技法	ポスター ・ポスターデザインに関心を持ち、伝えたい情報やイメージ、伝える場面をもとに主題を生み出し、文字の形や色彩、構成、伝達するイメージ、伝達効果などを考え、見通しを持って、デザインし表すことができる。 ・伝えたい情報や場面を見つけて主題を生み出し、発想方法を参考にしながら、伝えたいことを効果的に伝えるデザインをアイデアスケッチなどで表すことができる。 ・より印象的に伝えるために形や色彩、文字や画面構成を検討し、材料や用具の特性を生かして制作することができる。
２学期	命を思うポスターの制作 ポスターの制作技法	ポスター ・ポスターデザインに関心を持ち、伝えたい情報やイメージ、伝える場面をもとに主題を生み出し、文字の形や色彩、構成、伝達するイメージ、伝達効果などを考え、見通しを持ってデザインし表すことができる。 ・伝えたい情報や場面を見つけて主題を生み出し、発想方法を参考にしながら伝えたいことを効果的に伝えるデザインを表すことができる。 ・より印象的に伝えるために形や色彩、文字や画面構成を検討し、材料や用具の特性を生かして制作することができる。
	鑑賞：現代の美術	鑑賞 ・現代美術の美しさ、面白さを感じ取り、作者の心情や表現の意図と表現の工夫などについて考えるなど、美意識を高め、見方や感じ方を深めようとしている。 ・作者の心情や表現の意図、創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。
３学期	篆刻	篆刻 ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。表したいイメージなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
	鑑賞：社会と美術	鑑賞 ・社会における課題を美術の力で解決しようとする取組や商品について鑑賞し、感じたことや考えたことを話し合うことができる。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさと調和、美術の働きなどについて独創的、総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト	・授業での活動の様子 ・ワークシートや振り返りシート ・制作した作品やアイデアスケッチ ・定期テスト

〔学習のポイント〕

・授業に集中して取り組もう。
・学習内容や習った表現技法を復習するなどして身につけよう。
・普段から身の周りのものや風景、美術作品などに興味を持とう。

教科	保健体育	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
（2）運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
（3）生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	●オリエンテーション ・授業の進め方、評価の仕方、約束事	●授業についての説明をしっかり確認し、約束事を守り、安全に積極的に活動できるようにする。
	●集団行動・体つくり運動 ・集合、整列、姿勢、礼、など	●集団行動を通じて、規律とマナーを身につける。 自分や仲間の体や心の状態に気付き、体を動かす楽しさを味わう。
	●新体力テスト ・測定の仕方・計測、体力要素自己分析	●自分の目標を設定し、記録に挑戦する意欲を身につける。 自分の体力を分析し、課題解決方法を身につける。
	●陸上競技（リレー） ・短距離走、リレーの記録測定と方法の確認	●滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせることを身につける。
	●体育理論	●運動やスポーツの必要性と楽しさについて理解する。
２学期	●体育祭の集団演技	●集団規律、互いに指摘、支援し合い協力して活動する。
	●水泳（クロール、平泳ぎ）	●手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。 手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。
	●器械運動（マット運動） ・連続技	●回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを身につける。 運動の名前や技のポイントを理解し、連続技が組み立てられる。
	●ダンス（創作ダンス）	●多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。
	●体育理論	●運動やスポーツへの多様な関わり方を理解する。
３学期	●陸上競技（長距離走）	●自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。
	●武道（剣道） ・礼法、防具の付け方、基本動作、基本となる技	●礼法を守り、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防を身につける。
	●球技（バスケットボール） ・パス、ドリブル、シュートなどの基本技能	●ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。
	●体育理論	●運動やスポーツの多様な楽しみ方を理解する。
	●健康な生活と病気の予防 ●心身の発達と心の健康	●年齢に伴う発達段階を踏まえ、心身の調和と心の健康を理解する。 ●思春期の心の発達を理解し日常生活に生かされる力を理解する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に 自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
評価の方法	●各種テストによる評価 ＊学習内容を理解しているか。（単元テスト） ＊種目に応じた技能を身に付けているか。（技能テスト） ＊身につけた技能のポイント等を正しく説明できるか。 ●記録会、発表会、試合による評価 ＊めあてを理解し、目標となる基準をクリアできるか。 ＊種目に応じた技能を習得し、安全に留意して活動できるか。	●単元テストによる評価 ＊思考力や判断力を問う問題に、的確な表現で解答できるか。 ＊与えられた課題の趣旨を理解し、考察したことをうまく表現できるか。 ●実技による評価 ＊授業中に生じる課題に対して、自ら解決策を考え、実行することができるか。 ＊記録会や発表会、試合を効率よく進めるために、最適な方法を考え、実行することができるか。	●授業に向かう姿勢の評価 ＊授業態度、提出物の取組状況は良好か。 ●練習での学び合いの姿勢の評価 ＊積極的に学び合いに参加しているか。 ＊記録会などで仲間へのアドバイスや助言、応援ができているか。 ●振り返りシート等の評価 ＊自身の取組状況をふまえ、適切に自己分析ができているか。

〔学習のポイント〕

・できなかったことができる喜びを味わおう。
・苦手な事にも挑戦したり、できるように教え合いながら努力したりする素晴らしさを知ろう。
・体力をつけよう。

教科	保健体育	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
（2）運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
（3）生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	●オリエンテーション ・授業の進め方、評価の仕方、約束事 ●集団行動・体つくり運動 ・集合、整列、姿勢、礼など ●新体力テスト ・測定の仕方、計測、体力要素自己分析 ●陸上競技（ハードル走） ●水泳（クロール、平泳ぎ）	●授業についての説明をしっかり確認し、約束事を守り、安全に積極的に活動できるようにする。 ●集団行動を通じて、規律とマナーを身につける。 自分や仲間の体や心の状態に気付き、体を動かす楽しさを味わう。 ●自分の目標を設定し、記録に挑戦する意欲を身につける。 自分の体力を分析し、課題解決方法を身につける。 ●リズミカルな走りから滑らかにハードルを越すことを身につける。 ●手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。 手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。
２学期	●体育祭の集団演技 ●球技（ソフトボール） ●器械運動（跳び箱運動） ●ダンス（現代的なリズムのダンス） ●体育理論	●集団規律、お互いに指摘、支援し合い安全面に注意し協力して活動する。 ●ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができる。 ●切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行う事ができる。 条件を変えた技や発展技ができるようにする。 ●多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。 ●運動やスポーツが心身に及ぼす効果。 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果。
３学期	●陸上競技（長距離走） ●武道（剣道） しかけ技、応じ技 ●球技（バレーボール） ●体育理論	●自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。 ●剣道では相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開する。 ●ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 ●安全な運動やスポーツの行い方、学び方。
	●健康な生活と病気の予防 ●傷害の防止	●健康な生活と病気の予防について理解できるようにする。 ●傷害の防止について理解を深めることができるようにする。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に 自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
評価の方法	●各種テストによる評価 ＊学習内容を理解しているか。（単元テスト） ＊種目に応じた技能を身に付けているか。（技能テスト） ＊身につけた技能のポイント等を正しく説明できるか。 ●記録会、発表会、試合による評価 ＊めあてを理解し、目標となる基準をクリアできるか。 ＊種目に応じた技能を習得し、安全に留意して活動できるか。	●単元テストによる評価 ＊思考力や判断力を問う問題に、的確な表現で解答できるか。 ＊与えられた課題の趣旨を理解し、考察したことをうまく表現できるか。 ●実技による評価 ＊授業中に生じる課題に対して、自ら解決策を考え、実行することができるか。 ＊記録会や発表会、試合を効率よく進めるために、最適な方法を考え、実行することができるか。	●授業に向かう姿勢の評価 ＊授業態度、提出物の取組状況は良好か。 ●練習での学び合いの姿勢の評価 ＊積極的に学び合いに参加しているか。 ＊記録会などで仲間へのアドバイスや助言、応援ができているか。 ●振り返りシート等の評価 ＊自身の取組状況をふまえ、適切に自己分析ができているか。

〔学習のポイント〕

・できなかったことができる喜びを味わおう。
・苦手な事にも挑戦したり、できるように教え合いながら努力したりする素晴らしさを知ろう。
・体力をつけよう。

教科	保健体育科	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（1）各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
（2）運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
（3）生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	●オリエンテーション ・授業の進め方、評価の仕方、約束事 ●集団行動・体つくり運動 ・集合、整列、姿勢、礼など ●新体力テスト ・測定の仕方、計測、体力要素自己分析 ●陸上競技（走り高跳び） ●水泳（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）	●授業についての説明をしっかり確認し、約束事を守り、安全に積極的に活動できるようにする。 ●集団行動を通じて、規律とマナーを身につける。 自分や仲間の体や心の状態に気付き、体を動かす楽しさを味わう。 ●自分の目標を設定し、記録に挑戦する意欲を身につける。 自分の体力を分析し、課題解決方法を身につける。 ●リズミカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。 ●手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり　速く泳いだりすること。
２学期	●体育祭の集団演技 ●球技（ハンドボール） ●陸上競技（長距離走） ●ダンス（現代的なリズムのダンス） ●体育理論	●集団規律、お互いに指摘、支援し合い安全面に注意し協力して活動する。 ●ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 ●自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。 ●全身でリズムをとらえ、身体の使い方や動きを知る。 ●現代生活におけるスポーツの文化的意義 国際的なスポーツ大会の文化的な役割
３学期	●球技（バレーボール・バドミントン） ●球技（サッカー） ●体育理論	●ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携にした動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ●ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 ●安全な運動やスポーツの行い方
保健	●健康な生活と病気の予防	●健康の保持増進には環境適応能力がある。 的確な意志決定や行動選択ができるようにする。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に 自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
評価の方法	●各種テストによる評価 ＊学習内容を理解しているか。（単元テスト） ＊種目に応じた技能を身に付けているか。（技能テスト） ＊身につけた技能のポイント等を正しく説明できるか。 ●記録会、発表会、試合による評価 ＊めあてを理解し、目標となる基準をクリアできるか。 ＊種目に応じた技能を習得し、安全に留意して活動できるか。	●単元テストによる評価 ＊思考力や判断力を問う問題に、的確な表現で解答できるか。 ＊与えられた課題の趣旨を理解し、考察したことをうまく表現できるか。 ●実技による評価 ＊授業中に生じる課題に対して、自ら解決策を考え、実行することができるか。 ＊記録会や発表会、試合を効率よく進めるために、最適な方法を考え、実行することができるか。	●授業に向かう姿勢の評価 ＊授業態度、提出物の取組状況は良好か。 ●練習での学び合いの姿勢の評価 ＊積極的に学び合いに参加しているか。 ＊記録会などで仲間へのアドバイスや助言、応援ができているか。 ●振り返りシート等の評価 ＊自身の取組状況をふまえ、適切に自己分析ができているか。

〔学習のポイント〕

・できなかったことができる喜びを味わおう。
・苦手な事にも挑戦したり、できるように教え合いながら努力したりする素晴らしさを知ろう。
・体力をつけよう。

教科	技術	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身につけ，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

（２）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践 を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。

（３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	・ガイダンス 技術分野で学ぶこと 技術を見つけよう 技術とわたしたちの生活 学習の見通しをもとう ・材料と加工の技術 ものづくりの視点と進め方 材料 木材・金属・プラスチックについて 製図	 ・技術分野の学習内容に関心をもっている。 ・技術が生活や社会に影響を与えていることに気づくことができる。 ・技術の進展と環境との関係に関心を示している。 ・学習の進め方に見通しをもっている。 ・材料と加工の技術の工夫に気づいている。 ・材料の主な特徴や材料と環境との関わりについて理解している。 ・省資源や安全に配慮し，新しい発想を生み出すことができる。 ・材料に合わせた適切な加工方法を理解している。 ・等角図、第三角法について理解し、正確に書くことができる。
２学期	・実習（木材を用いた製作） けがき 切断 切削	 ・材料に適した作業方法，製作図の必要性やかき方について理解し，基本的な製作図をかくことができる。 ・材料に合わせて適切な加工ができる。 ・材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて問題を発見することができる。
３学期	組み立て 仕上げ ・社会の発展と材料と加工の技術	 ・使用の目的や条件によって機能や構造，材料と加工方法などを決めている。 ・省資源や安全に配慮し，新しい発想を生み出そうとしている。 ・材料と加工の技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。 ・材料と加工の技術の課題を社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討し，適切な解決策を見出そうとしている。 ・材料と加工の技術の課題を進んで見つけようとしている。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，技術と生活や社会,環境との関わりについて理解している。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し，その解決を目指して、技術を評価，選択，管理・運用，改良，応用している。	進んで技術と関わろうとするとともに,主体的に 技術に関する知識・技能を身につけ，よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期テスト 作品（技能）の取り組み	定期テスト 学習プリントの内容　　レポートの内容	提出物の内容　自主ノートの内容　授業中の様子 振り返りシート　学習プリントの内容

〔学習のポイント〕

○積極的に実習に取り組もう

技能はやらないと身につきません。積極的に挑戦し、失敗から学んでいきましょう。

○復習をしっかりしよう

今日学習したことをしっかり復習し、次回の授業には理解したうえで授業に取り組めるようにしていきましょう。

教科	技術	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身につけ，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

（２）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。

（３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	・ガイダンス 技術分野で学ぶこと（２年生）	・技術分野の学習内容に関心をもっている。
	・エネルギー変換の技術 ・わたしたちの生活とエネルギー変換 ・電気エネルギーの利用 ・ギア、リンク学習セットでの体験 ・運動の利用	・社会で利用されているエネルギー変換の技術について理解している。 ・エネルギー変換の技術の工夫や果たす役割と影響に気づいている。 ・電源の種類や特徴を理解している。 ・電気エネルギーを変換して利用する仕組みや変換方法を理解している。 ・機器の構造や各部の働き，保守点検や事故防止などの安全等について，適切な使用方法を理解している。 ・電気図記号を用いて回路図を書くことができる。 ・力の伝達や動きを変化する仕組みなどを理解し、機械の保守点検ができる。
２学期	・生物育成の技術 ・生物の育成 ・作物の栽培 ・動物の飼育 ・水産生物の栽培 ・実習（生物育成）	・生物育成の技術の工夫や生活に果たす役割に気づいている。 ・生物育成のサイクルや育成計画の立て方を理解している。 ・作物に適した栽培時期や管理，収穫の方法を理解している。 ・条件に応じた栽培計画を理解している。 ・動物の適切な管理方法を理解している。 ・条件に応じた飼育手順を理解している。 ・水産生物の適切な管理方法を理解している。 ・条件に応じた栽培手順を理解している。 ・資材や用具を適切に用いて，管理作業を実施することができる。 ・栽培，飼育する生物の生長の変化に応じて適切な管理作業を選択している。 ・環境に対する負荷の軽減や安全に配慮しながら，新しい発想を生み出し活用しようとする。
３学期	・実習（エネルギー変換） エコキューブラジオの製作 ・これからのエネルギー変換の技術	・組立てや調整に必要な工具や機器を適切に使用することができる。 ・設計に基づいて，安全に製作品の組立て・調整，配線や点検等を行っている。 ・エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせて問題を発見することができる。 ・使用の目的や条件によって，適切な設計要素や変換方法などを決めている。 ・省資源や安全に配慮し，新しい発想を生み出そうとしている。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，技術と生活や社会,環境との関わりについて理解している。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し，その解決を目指して、技術を評価，選択，管理・運用，改良，応用している。	進んで技術と関わろうとするとともに，主体的に技術に関する知識・技能を身につけ，よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期テスト 作品（技能）の取り組み	定期テスト　学習プリントの内容 レポートの取り組み	提出物の内容　自主ノートの内容　授業中の様子 振り返りシート　学習プリントの取り組み

〔学習のポイント〕

○積極的に実習に取り組もう

技能はやらないと身につきません。積極的に挑戦し、失敗から学んでいきましょう。

○復習をしっかりしよう

今日学習したことをしっかり復習し、次回の授業には理解したうえで授業に取り組めるようにしていきましょう。

教科	技術	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身につけ，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

（２）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践 を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。

（３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	ガイダンス（３年生）	・技術分野の学習内容に関心をもっている。
	情報の技術 ・TinkerCAD	・TinkerCAD を用いて、CAD の基礎的な作業を行うことができる。
	・表計算	・表計算ソフトを用いて、問われた値を導き出すことができる。
２学期	情報の技術 ・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング	・情報の表現手段とその内容（コンテンツ）についての特徴を理解している。 ・設計に基づいて適切なコンテンツの表現およびプログラミングを行うことができる。 ・情報の技術の見方・考え方を働かせて問題を発見することができる。 ・使用の目的や条件によって，適切な方法を比較・検討し，設計・作成することができる。 ・多様な利用者が安心して利用できるプログラムを考えようとしている。
	・プログラムによる計測・制御	・計測・制御システムの構成や，プログラムによって情報を処理するしくみについて理解している。 ・設計に基づいて適切なシステムの構成およびプログラミングを行うことができる。 ・情報の技術の見方・考え方を働かせて問題を発見することができる。 ・使用の目的や条件によって，適切な方法を比較・検討し，設計・製作できる。 ・利用者への影響などに配慮しながらプログラムを考えようとしている。
３学期	・社会の発展と情報の技術	・情報の技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。 ・情報の技術の課題を社会的，環境的及び経済的側面などから比較・検討して解決策を見出そうとしている。 ・情報の技術の課題を進んで見つけようとしている。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，技術と生活や社会,環境との関わりについて理解している。	生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し，その解決を目指して、技術を評価，選択，管理・運用，改良，応用している。	進んで技術と関わろうとするとともに，主体的に技術に関する知識・技能を身につけ，よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしている。
評価の方法	定期テスト 作品（技能）の取り組み	定期テスト　学習プリントの内容 レポートの取り組み	提出物の内容　自主ノートの内容　授業中の様子 振り返りシート　学習プリントの取り組み

〔学習のポイント〕

〇積極的に実習に取り組もう

　技能はやらないと身につきません。積極的に挑戦し、失敗から学んでいきましょう。

〇復習をしっかりしよう

　今日学習したことをしっかり復習し、次回の授業には理解したうえで授業に取り組めるようにしていきましょう。

教科	家庭科	学年	第１学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）家族・家庭の機能について、理解を深め、生活に必要な基礎的な理解を図るとともに技能を身につける。
（２）衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用や個性を生かす選択について理解する。
（３）家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	**1.家族・家庭生活**	
	わたしの生活と家族・家庭	家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。
	家庭を支える社会	自分や家族の生活内や家庭外の活動が支えていることに気づく。
	1.衣生活	
	目的に応じた衣服の選択	衣服の社会生活上のはたらきがわかる。
	自分らしくコーディネート	自分らしい着方を工夫する。
	布を用いた製作の基礎・基本	
２学期	布を用いた製作の基礎・基本	布を用いて生活を豊かにするものを考え、製作する。
	和服の文化	和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。
	上手な衣服の選択	自分の衣服計画を立て、既製品を選ぶポイントを理解する。
	布の繊維に応じた手入れ	取扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択する。
	持続可能な衣生活をめざして	資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫する。
３学期	**2.住生活**	
	住まいのはたらき	住まいの基本的な役割について理解する。
	住まいの空間	さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。
	家庭内事故への備え	家庭内の事故の種類と、その原因を知るとともに、幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。
	災害への備え	さまざまな災害に備え、屋内を安全に整備する必要とその方法について理解する。
	持続可能な住生活	さまざまな住まいと住まい方を工夫する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。 衣服の選択と着用、計画的な活用と手入れについて理解している。 住居の基本的な機能を理解している。	家族・家庭生活の中から、自らの生活をよりよくするために、課題を持って考え、解決しようと工夫している。	自らの生活を工夫し、生活をよりよくするために、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 実習やグループ活動に、自分なりの意見を持って積極的に参加しようとしている。
評価の方法	定期テスト（小テスト）、実技テスト、作品等	作品、レポート、定期テスト、実技テスト、授業中の学び合い活動等	授業や課題への取り組み、自主ノート、レポート課題、振り返りシート等

〔学習のポイント〕

１．授業の日の学習を整理する
　授業の中で大事だったところをもう一度確認し、わからないところを確認しましょう。
２．わからない時は自主ノートを使って復習する
　基礎の理解につながり、わからないをわかる学習にしましょう。
３．自発的に取り組む習慣をつくる
　学校での学びを家庭で活用できるよう、積極的に家庭の仕事に参加しましょう。

教科	家庭科	学年	第２学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）健康によい食事について理解することで、自らの食生活を工夫し創造する。
（２）健康・快適・安全で豊かな住生活について考え、工夫する活動を通して、住空間に関する知識及び技能を身につける。
（３）幼児の発達と成長の特徴がわかり、子供が育つ環境としての家族の役割を理解する。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	1.食生活	
	食事の役割、健康によい食習慣	食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。健康によい食事について学び、規則正しく食事をとる重要性を理解する。
	中学生の発達と必要な栄養素	中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。
	栄養素のはたらきと６つの基礎食品群	食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。
	１日の献立	自分の献立を立て、必要な栄養を満たす献立を考える。
２学期	生鮮食品と加工食品の選択	生鮮食品と加工食品の特徴がわかる。
	食品の安全と情報	食品を選択するとき、食品の安全や情報に関心をもって選択する。
	調理の計画	調理の流れと手順がわかり、計画を立てる。
	魚の調理	魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚の性質を知る。
３学期	肉の調理	肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉の性質を知る。
	地域の食文化	地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。
	持続可能な食生活	持続可能な食生活を送るために食生活を工夫する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	食事の役割と中学生に必要な栄養を満たす食事について理解している。 家族の生活と住空間とのかかわりについて理解している。 幼児の発達と生活、幼児の遊びの意義について理解している。	自らの生活に関心を持ち、生活を豊かにするするために、課題を持って考え、解決しようと工夫している。	自らの生活を工夫し、生活をよりよくするために、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 実習やグループでの活動に、自分なりの意見を持って積極的に参加しようとしている。
評価の方法	定期テスト（小テスト）、技能テスト、作品等	作品、レポート、定期テスト、実技テスト、授業中の学び合い活動等	授業や課題への取り組み、自主ノート、レポート課題、振り返りシート等

〔学習のポイント〕

４．授業の日の学習を整理する
　授業の中で大事だったところをもう一度確認し、わからないところを確認しましょう。
５．わからない時は自主ノートを使って復習する
　基礎の理解につながり、わからないをわかる学習にしましょう。
６．自発的に取り組む習慣をつくる
　学校での学びを家庭で活用できるよう、積極的に家庭の仕事に参加しましょう。

教科	家庭科	学年	第３学年	担当者	

〔教科目標〕

（１）幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性について理解する。
（２）地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを理解する。
（３）計画的な金銭管理の必要性について理解する自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫することができる。

〔学習計画〕

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）
１学期	1. 幼児の生活と家族	
	幼児にとってのおとなの役割	子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。
	幼児の体の発達	幼児の身体の発育について，発達の方向性や順序性とともに、個人差があることを理解する。
	幼児の心の発達	幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。
	子どものおもちゃ作り	子どもの成長に合ったおもちゃを考え、創造する。
２学期	子どものおもちゃ作り	子どもの成長に合ったおもちゃを考え、創造する。
	遊びが必要なわけ	自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。
	遊びを支える環境	幼児にとって十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。
	ふれあい体験の前に	幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 さまざまな幼児がいることを理解し、幼児との接し方を考える。
	子どもの成長と地域	子どもの成長と地域のつながりについて知り、地域の中で、中学生ができることを考える。
	保育実習	幼児との触れ合いの中で、感じたことや考えたことを話し合い幼児への理解を深める。
	2. 消費生活・環境	
	家庭生活と消費	経済活動のサイクルや収支のバランスを図るために必要な流れを把握し、多様な支払方に応じた計画的な金銭管理の必要性を理解する。
	購入・支払いと生活情報	さまざまな購入・支払い方法の特徴を知り、購入する商品の選択に必要な情報の収集・整理を適切に行い、工夫できるようにする。
	消費者被害と消費者の自立	ネットの普及やキャッシュレス化の進行による消費者被害の被害者・加害者にならないための対策を考える。
３学期	持続可能な社会	環境への影響として自分や家族の消費生活が社会に及ぼす影響について理解し、持続可能な生活に向けてより意識を高める。
	3. 家庭生活と地域のかかわり	
	地域で暮らす高齢者	地域で暮らす高齢者や見守りが必要な高齢者との関わりを考える。
	高齢者との関わり	介助が必要な高齢者を通して、考えられる課題を理解する。

〔評価の観点と評価の方法〕

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	幼児の発達と生活、幼児の遊びの意義を理解している。幼児とのかかわり方について、学んだ知識を活用して幼児とふれ合う。幼児に合った遊びを工夫し、製作する。 高齢者の体の特徴やかかわり方について理解している。	幼児との関わり方や、自らの生活に関心を持ち、生活を豊かにするために、課題を持って考え、解決しようと工夫している。	幼児との関わり方を工夫し、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 実習やグループでの活動に、自分なりの意見を持って積極的に参加しようとしている。
評価の方法	定期テスト（小テスト）、技能テスト、作品等	作品、レポート、定期テスト、実技テスト、授業中の学び合い活動等	授業や課題への取り組み、自主ノート、レポート課題、振り返りシート等

〔学習のポイント〕

７．授業の日の学習を整理する
　授業の中で大事だったところをもう一度確認し、わからないところを確認しましょう。
８．わからない時は自主ノートを使って復習する
　基礎の理解につながり、わからないをわかる学習にしましょう。
９．自発的に取り組む習慣をつくる
　学校での学びを家庭で活用できるよう、積極的に家庭の仕事に参加しましょう。